

長崎市方言における文末詞バイとタイ

—若年層のイントネーションと代替方言に着目して—

言語学・応用言語学分野

2021（令和3）年入学

藤本和佳菜

2025（令和7）年1月提出

概要

本研究の目的は、長崎県長崎市方言における文末詞「バイ」と「タイ」について、若年層を対象に研究し、意味機能の違いを明らかにすることである。

形態素「バイ」「タイ」の意味と、上昇、下降のイントネーションの意味をし、それぞれの条件を統制しエリシテーションを行った。

その際に高山(2016)や坪内(1995)らの談話管理理論に基づく整理の枠組みを用いた。

その結果、形態素「バイ」は知識Pが談話管理者（話し手、聞き手）のいずれかにとって新規情報であり、形態素「タイ」は知識Pが聞き手の知識領域内に既に存在する既存情報であるという意味が同定された。さらに、上昇イントネーションは聞き手に何らかの反応を求める働きかけを行い、下降イントネーションは命題が真であることの宣告をするという意味が同定された。

さらに、「バイ」や「タイ」に代わる代替方言形式があるかを調査した。

その結果として、他の方言に比べて「バイ」の他形式への置き換えは進んでおらず、今なお盛んに使われている形式であることが明らかになった。

目次

1	はじめに	1
2	長崎市方言とは	3
3	論点	3
3.1	イントネーションについて	5
3.2	長崎市方言における「バイ」の重要性	9
3.3	本研究において中心的に扱う「談話管理理論」を取り入れた先行研究	9
4	調査	11
4.1	調査の目的	11
4.2	調査項目・例文設定	12
4.3	調査方法	12
4.4	調査対象者	12
4.5	容認度	13
5	調査結果と考察	14
5.1	「バイ」の意味とイントネーション	14
5.2	「タイ」の意味とイントネーション	18
6	長崎市方言「バイ」と「タイ」における若年層の代替方言形式	21
6.1	調査結果	21
6.2	代替方言形式の調査から得られる考察	23
7	終わりに	24
	参考文献	26
	付録（調査例文）	27
	高山（2016）が設定した分類項目	33
	グロス一覧	35

1 はじめに

本研究の目的は、長崎市で話されている方言（以下、長崎市方言）における「バイ」と「タイ」の意味機能の違いとその使い分けについて、特に若年層に着目して研究することである。形態素の意味としての違いに加えて、従来の研究ではあまり言及されていなかったイントネーションの違いにも焦点を当てて詳細に分析する。

本論に進む前に、扱う現象について概要を示しておく。以下の例のように、長崎市方言を含む肥筑方言において、「バイ」と「タイ」はパラディグマティックな対立関係において用いられることが可能で、その意味の違いがしばしば問題として取り上げられてきた。（坪内（1995）、高山（2016）^{*1}など）

本論文では、問題の文末詞をバイ、タイのようにカタカナで表記する。また、長崎市方言母語話者である筆者が独自に作成した例文や、先行研究を参考に作成した例文など、先行研究からの引用例文以外にはグロスをつけて記述する。なお、長崎市方言を扱った文献の中には「長崎方言」と表記されている文献もあるが、本論文では一貫して「長崎市方言」と記す。

「バイ」と「タイ」は互いに交替可能な環境に生じ、体言、用言どちらの後ろにも接続できる。さらに、共通語に訳すとその違いが必ずしも明確に訳出されない。そのためどのような意味の違いがあるのかはっきりとはわかりづらい。

- (1) a. 先輩 今 来た バイ。

senpai ima kitabai
senpai ima ki-ta=bai
先輩 今 来る-PST=SFP
「先輩今來たよ。」

- b. 先輩 今 来た タイ。

senpai ima kitatai
senpai ima ki-ta=tai
先輩 今 来る-PST=SFP
「先輩今來たよ。」

- (2) a. 明日学校タイ、はよ寝なさい。

asita gakkootai hayo nenasai
ashita gakkoo=tai hayo nena-sai
明日 学校=SFP 早く 寝る-IMP

^{*1} 高山の「たか」は「はしごだか」である。

「明日学校だよ、早く寝なさい。」

b. 明日学校バイ、はよ寝なさい。

asita gakkoobai hayo nenasai
ashita gakkoo=bai hayo nena-sai
明日 学校=SFP 早く 寝る-IMP

「明日学校だよ早く寝なさい」

しかし、上述した例文をそれぞれに比較すると形態素の意味的な違いのみならず、文末のイントネーションが変化することでも文章の意味がそれぞれ大きく違ってくると考えられる。さらに、福岡市方言における研究資料では次に示す例文のように動詞などの用言の後ろに「と」を付けてそのあとに「タイ」が続く形もみられたが、若年層が使用する長崎市方言ではあまり見られない形である。

(3) あ、そうタイ。お土産ば持ってきたとタイ。

「あ、そうだ。お土産を持ってきてたんだ」

(高山 1995:95 より引用)

本論文の構成は以下の通りである。まず、第2章で対象とする長崎市方言の概略を示し、次に第3章では「バイ」「タイ」を持つ方言における先行研究の概要とその問題点をいくつか提示するとともに、長崎市方言と先行研究における「バイ」と「タイ」をそれぞれ比較することで本論文の論点を提示する。さらに、第4章で長崎市方言における「バイ」と「タイ」の調査概要について述べる。第5章で調査結果とその考察からわかるそれぞれの特徴を述べる。その後、第6章でこれらの方言の代替形式として若年層の間ではどのような文末表現が見られたのかについても述べていく。最後に第7章では、この調査の全体のまとめを行うとともに、本論文における課題点と今後の展望を示す。

2 長崎市方言とは

本研究は長崎市で使われている方言を対象としている。長崎市は長崎県南部に位置しており、面積は令和5年4月1日現在、405.69km²、人口は令和6年12月1日現在、387,829人^{*2}である。長崎市は以下の図1の着色部分の位置である。^{*3}

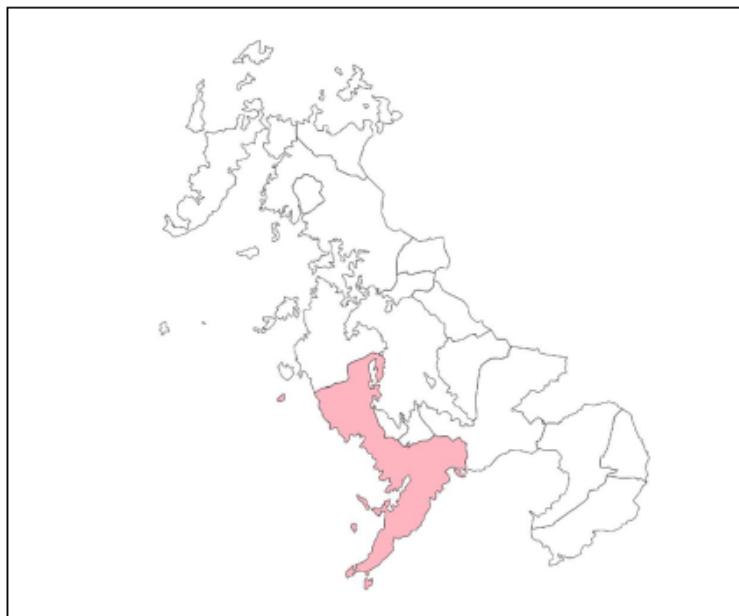


図1 長崎市：着色部分

平山（1998）によると、長崎市の方言は、佐賀県・熊本県全域と福岡県西部・南部の方言とともに九州西北部の「肥筑方言」に属している。長崎県は面積に対して方言の内部差が大きいという特徴があり、方言の特徴から地域をいくつかに分割する方言区画がある。方言区画は8区分あり、長崎方言（本研究における長崎市方言）、大村・彼杵方言、諫早・北高方言、島原・南高方言、佐世保・北松方言、五島方言、壱岐方言、対馬方言に分けられている。また、この区画のうち、長崎方言を含む前者4つの方言は中南部本土方言といわれ長崎県の方言を代表する方言となっている。

3 論点

長崎市方言の「バイ」と「タイ」の意味を研究するためには、それそれぞれにおけるイントネーションが重要である。特に、「バイ」は上昇イントネーションと結びつきやすく、「タイ」は下降イントネーションと結びつきやすい。

イントネーションの重要性を具体例とともに以下に示す。（↑）は上昇イントネーションを、（↓）は下降イントネーションを示す。

^{*2} 長崎市 HP より

^{*3} 白地図ぬりぬりを用いて筆者が作成

まずは「バイ」を使った例文を示す。「バイ」は上昇イントネーションで実現することが多い。

- (4) (状況) 太郎が学生であることを私は知っていて、相手は知らずに、その情報を相手に伝えるとき。

太郎、学生バイ。(↑)

taroo gakuseibai
taroo gakusei=bai
太郎 学生 = SFP

「太郎は学生だよ。」

- (5) (状況) 相手から（何をしているかはわからない）何してるの？と聞かれて聞き手に、洗濯してるんだよと答えるとき。

洗濯しょっとバイ。(↑)

sentaku siyottobai.
sentaku siyo-tto=bai.
洗濯 する-PROG=SFP.

「洗濯しているんだよ。」

次に、「タイ」を使った例文を示す。「タイ」は下降イントネーションで実現することが多い。

- (6) (状況) 太郎は学生であることをお互い知っているはずなのに、太郎ってどこで働いてるっけ？と相手に聞かれ、「太郎は学生だよ」と相手にいうとき。

太郎、学生タイ。(↓)

taroo gakuseitai
taroo gakusei=tai
太郎 学生 = SFP

「太郎は学生だよ。」

- (7) (状況) 妹がテレビを遅くまで見ていて、明日学校だから早く寝なさい。と妹に注意するとき。(妹も明日学校であることを知っている。)

明日学校タイ。(↓) はよ寝なさい。

asita gakkootai. hayo nenasai.
asita gakkoo=tai. hayo ne=nasai.
明日 学校=SFP. 早く 寝る=IMP.

「明日学校だよ。早く寝なさい。」

以上の例からもわかるように、長崎市方言における「バイ」と「タイ」はそのイントネーションとの関係が重要である。

本論文では、上昇と下降のイントネーションを意味機能の手掛けりとして、「なぜ『バイ』は上昇イントネーションと、『タイ』は下降イントネーションと結びつきやすいのか」を記述するため、従来の研究と視点を変えて、イントネーションにも注目してみたい。しかし、これまでに行われた「バイ」と「タイ」の先行研究においてイントネーションに着目したものはほぼない。また、先行研究では「バイ」と「タイ」を比較した研究よりも、もっぱら「タイ」を扱った記述が目立っている。この二つは長崎市方言を記述していくうえで大きな弱点である。また、これら二つの原因として考えられるのは、そもそも長崎市方言の「バイ」と「タイ」に言及した先行研究が極端に少ないという点である。

3.1 イントネーションについて

先行研究では肥筑方言の「バイ」と「タイ」に言及したものはいくつか見られる。例えば、長野・島田(2019)では、「バイ」と「タイ」を九州方言文末詞として捉え、形態的側面と統語的側面から言及している。さらに、意味機能に注目した平川(2008)では、「バイは、話し手が聞き手の側には無いと判断する情報を聞き手に提示することをマークする形式」であり、「タイは話し手が聞き手の側には無いと判断する情報を、自己の記憶、知識等に照らし合わせた上で提示することをマークする形式である。」(平川 2006:117)とそれぞれの特徴について論じている。「バイ」は新規情報の提示という機能のみであるのに対し、「タイ」はその命題を「自身の記憶や知識に照らし合わせた上で聞き手に提示する」(平川 2006:117)という主張である。そのほかにも先行研究における「バイ」と「タイ」の意味記述についての調査は、肥筑方言全体で見てみると前田(1999)、前田(2018, 2021)、坪内(1995)、高山(2016)、笠(2013)などがあるが、前述した通り、イントネーションについて言及したものはほぼ見られない。唯一坪内(2001)が本文中でわずかに触れているが、十分な検討がなされているとは言い難い。また、「バイ」と「タイ」両方のイントネーション比較を試みた先行研究は現段階で見つかっていない。

その原因として考えらえるのは、これまでの研究は、「バイ」の上昇と「タイ」の下降といわば典型的な組み合わせにのみ注目してきたからである。

ここで、「バイ」の意味を $M(B)$ 、「タイ」の意味を $M(T)$ とし、上昇イントネーションの意味を $M(R)$ 、下降イントネーションの意味を $M(F)$ とする。これまでの研究が提示している「『バイ』の意味」とは、 $M(B)+M(R)$ 、「『タイ』の意味」とは $M(T)+M(F)$ ということになり、本来抽出すべき $M(B)$ vs. $M(T)$ が取り出せていないことになる。すなわち、先行研究では「バイ」と「タイ」の意味を説明する際にイントネーションの意味まで含めてしまっている可能性があるのである。(以下の図2を参照)

	「バイ」の意味 M(B)	「タイ」の意味 M(T)
上昇イントネーションの意味 M(R)	M(B)+M(R) 従来の研究で言及されている「バイ」の意味	M(T)+M(R)
下降イントネーションの意味 M(F)	M(B)+M(F)	M(T)+M(F) 従来の研究で言及されている「タイ」の意味

図2 先行研究で言及された「バイ」と「タイ」の意味

本研究では、意味の違いを正確に取り出すために、イントネーションとの組み合わせを統制した調査を行う。以下はその例として「バイ」のイントネーションの上昇と下降に関して今回の調査から得られた結果の一部を例文とともに示す。まず、「バイ」と下降イントネーションとの組み合わせの例(8)とその容認度を示す。表中のAからEは回答者であり、容認できると回答したものに○をつける。

- (8) (状況) 友人の〇〇と、今日学校を休んでいる△△の話をしながら「そういえば確かに昨日、関節が痛いとか熱っぽいとか言いよったね～」に対する答えとして

ああ、それ、多分インフルエンザバイ。(↓)

aa sore tabun inhuruenzabai
 aa sore tabun inhuruenza=bai
 ああ、 それ 多分 インフルエンザ=SFP

「ああ、それ、多分インフルエンザだね。」

状況	例文	上・下	A	B	C	D	E
友人の〇〇と、今日学校を休んでいる△△の話をしながら「そういえば確かに昨日、関節が痛いとか熱っぽいとか言いよったね～」に対する答えとして「ああ、それ、インフルエンザだね」と言うとき	ああ、それ、多分インフルエンザバイ	上昇					
友人の〇〇と、今日学校を休んでいる△△の話をしながら「そういえば確かに昨日、関節が痛いとか熱っぽいとか言いよったね～」に対する答えとして「ああ、それ、インフルエンザだね」と言うとき	ああ、それ、多分インフルエンザバイ	下降	○	○		○	○

図3 下降イントネーションの容認例

この調査では5名中4名が「バイ」の下降イントネーションが自然であると答えた。なお、回答者Cについては、どちらも容認できなかった

「バイ」と上昇イントネーションの組み合わせの例とその容認度を示す。

(9) (状況) 長崎に初めて来た友人が、初めて見た龍踊（龍踊の知識なし）に驚いて「何これ？！」に対する答え

龍踊バイ。（↑）

zyaodoribai.

zyaodori=bai.

龍踊=SFP

「龍踊だよ。」

状況	例文	上・下	A	B	C	D	E
長崎に初めて来た友人が、初めて見た龍踊（龍踊の知識なし）に驚いて「何これ？！」に対して「龍踊だよ」と教える。	龍踊バイ。	上昇	○	○	○	○	○
長崎に初めて来た友人が、初めて見た龍踊（龍踊の知識なし）に驚いて「何これ？！」に対して「龍踊だよ」と教える。	龍踊バイ。	下降					

図4 上昇イントネーションの容認例

この調査では5名中5名が「バイ」の上昇イントネーションが自然であると答えた。

上記の例からもわかるように、長崎市方言の「バイ」と「タイ」の調査においてはイントネーションの違いも検討する必要があるといえるだろう。平川(2008)や高山(2016)においても今後の課題点として意味機能とイントネーションの関係に注目する必要性を論じているが、その後の研究においてもこれに着目したものはない。

3.2 長崎市方言における「バイ」の重要性

第3章で先行研究において「タイ」にのみ焦点を当てた記述が目立つことを指摘したが、これは先行研究で「バイ」「タイ」の方言調査が行われている該当地域で「バイ」の使用があまり見られないことが原因である。井上(2023)や高山(2016)などの福岡地方における「バイ」「タイ」の使用実態とその代替方言形式の記述を試みた論文でも、若年層において「バイ」を使用した回答はほぼ見られない、または一切見られない結果となっておりそれ以上触れられていない。さらに高山(2016)では「今回の調査結果を見る限り、福岡市福岡部の若年層において、バイは既に廃語と化していると言える」(高山 2016:126(19))とまで言及されている。その一方で、長崎市方言では「バイ」はまだ廃語のような状態にはなっておらず、若年層の使用頻度において他の肥筑地方と比べても比較的頻繁に使われている。前田(2018)では長崎県出身の長崎大学の学生20名に「バイ」の使用について調査を行い、その結果、「バイ」を文末に使用すると回答した者は全体の85%となった。この結果から、長崎市方言において「バイ」は「タイ」同様に重要な文末表現だということがわかる。

3.3 本研究において中心的に扱う「談話管理理論」を取り入れた先行研究

これまで先行研究における様々な問題点を提示してきた。そこで、本論文では「バイ」と「タイ」そのものの意味機能M(B)とM(T)、そして INTONATIONそのものの意味であるM(R)とM(F)について明らかにするために、「談話管理理論」を取り入れた先行研究を参照する。

3.3.1 談話管理理論とは

田窪(1989)によると、対話において相手との情報交換のためには、「前もって相手の知識の領域を想定しておく必要がある」(田窪 1989:212)とされている。例えば、聞き手の知識領域に無いと話し手が判断すれば相手に渡す情報は新規情報となる。田窪(1989)は、このような対話や談話に参加するものとしての聞き手と話し手のことを「談話管理者」と呼んだ。

3.3.2 「談話管理理論」を取り入れた坪内(1995)の研究

本論文では、坪内(1995)と高山(2016)の解釈モデルを理論的な枠組みにおく。坪内(1995)は談話管理理論を用いて独自の解釈モデルを設定し、話し手が発する情報が聞き手にとって新規情報であるか既存情報であるかに重点をおいて、「バイ」と「タイ」の分析を行っている。坪内(1995)は解釈モデルを図5のように設定した。

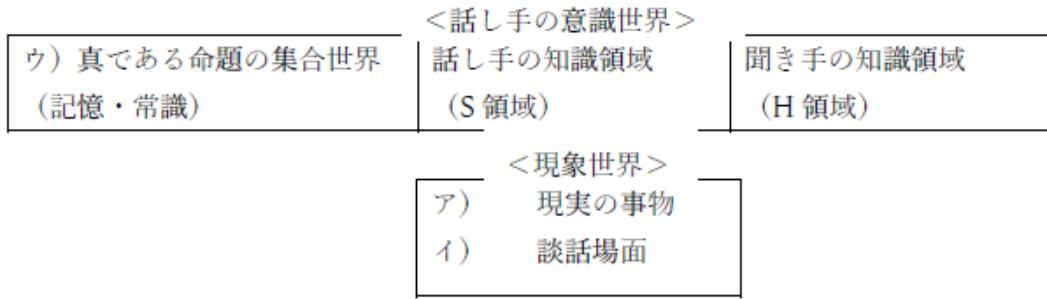


図 5 坪内が設定した解釈モデル（一部筆者が編集）

バイは「S 領域に獲得した知識 P を、それがまだ存在しない H 領域に書き込む操作をしていることを示す」と分析される。

例えば、以下は坪内 (1995) で挙げられた一例とその説明である。

- (10) A: ほら、あたしの本、知らん?
 (ねえ、私の本、知らない?)
 B: さあき読みよった本? ··· あ、ここにあるバイ。
 (さっき読んでた本? ··· あ、ここにあるよ。)

[坪内 (1995):81 例文 (20)]

この例文はまず、B が現場の事実から知識 P (A が探している本がここにある) を獲得する。そして、それを B は発話により、S 領域にのみ存在した知識 P を H 領域にも書き込む。

タイは「S 領域内の知識 P と記憶・常識内の P' をリンクさせているという知識 Pmeta を H 領域に書き込む操作をしていることを示す」と分析される。

例えば、以下は坪内 (1995) で挙げられた一例とその説明である。

- (11) あんた、1967 年生まれやったら、··· 今年で 28 になるとタイ。
 (あんた、1967 年生まれやったら、··· 今年で 28 になるんだ。)

[坪内 (1995):96 例文 (76)]

この例文では知識 P (相手が今年で 28 になる。) は、すでに H 領域に存在する既存情報である。坪内 (1995:97) によると、この状態は、まず話し手は「自分の中だけの「イ」談話場面での推論」からいわば一つの「答」として知識 P を S 領域に獲得する。そして、その知識 P は誰でも推測できるものであることから、「記憶・常識」内に同一の内容である P' を見つけ、P と P' がリンクした状態とみなす。そのリンクさせた知識を Pmeta とし、この知識 Pmeta は H 領域には存在しないものであるため、H 領域に書き込む。

3.3.3 坪内 (1995) を参考にした高山 (2016) の研究

高山 (2016) は、福岡市方言における「バイ」と「タイ」について、基本的な意味機能と派生する意味機能を合わせると 43 個もの分類を設定し、若年層の使用実態についてかなり詳細な分析を試み

ている。この際、坪内(1995)の解釈モデルを基にしている。さらに、高山は若者の「バイ」と「タイ」における代替方言形式についても調査している。高山(2016)が分類し設定した調査項目一覧は本論文末尾に付録として掲載している。

高山(2016)の分類項目には問題がある。例えば高山(2016)は「バイ」の分類について「新規情報・常識」というカテゴリーを立てているが、常識的情報は通常なら新規情報に分類されないと考えられる。以下は高山(2016)で使用された分類例文である。(〔4〕は高山(2016)での分類番号である。)

〔4〕 新規情報：常識（バイ）

(状況) 福岡に初めて来た友人が、新天町に設置してある山笠の飾り山に驚いて

(友人)「何これ？！」

(あなた)「山笠の飾り山だよ」

加えて、高山(2016)の調査では「バイ」を使用した回答が一切見られなかったとし、「バイ」に対する言及が十分に行われていない。「バイ」だけでも合計15個もの分類をしているにもかかわらず、その検証は行われなかった。

4 調査

ここでは、本研究の仮説、調査例文や調査方法、調査対象者など調査の概要について述べる。

4.1 調査の目的

本論文の目的は、長崎市方言の「バイ」と「タイ」について詳細に記述することである。本研究では形態素としての「バイ」と「タイ」そしてイントネーションの上昇と下降にはそれぞれ独立した意味があるという仮説を立てた。

	「バイ」の意味 M(B)	「タイ」の意味 M(T)
上昇イントネーションの意味 M(R)	M(B)+M(R)	M(T)+M(R)
下降イントネーションの意味 M(F)	M(B)+M(F)	M(T)+M(F)

図6 本論文の仮説

この仮説を検証するために、下記に示す調査を行った。

4.2 調査項目・例文設定

調査は3回に分けて実施した。調査のために使用した例文は、その調査ごとに異なる。まず、第1回調査では「バイ」「タイ」のイントネーションにのみ着目した例文セットを、長崎市方言の内省を持つ筆者が作成した。作成の過程で一部高山(2016)と坪内(1995)の例文を参考にした。第2回調査では、談話管理理論を用いて解釈モデルを設定した坪内(1995)と、高山(2016)の例文を参考に調査例文セットを作成した。第3回調査では、第2回調査において最も容認できると回答した例文について、「バイ」「タイ」の他に使う文末表現があるかを調査した。

それぞれの調査の詳細については、調査例文一覧として論文末尾に付録として掲載している。

4.3 調査方法

本論文の調査は、すべて対面またはオンラインによる対面形式での聞き取り調査である。設定した状況に対して、例文の文末詞を「バイ」の上昇と下降、「タイ」の上昇と下降の4つに分類し、こちらが提示した例文がどのくらい自然に感じるか、実際にどれくらい使うか、その容認度を回答してもらった。調査結果一覧は論文末尾に付録として添付している。

4.4 調査対象者

今回は10代後半から20代前半の若年層5名（筆者を含む）を対象に調査を行った。調査対象者は全員、現在に至るまで長崎市及び長崎市近郊地域で過ごしている人物、または、高校卒業までを同地域で過ごした人物である。図7において調査対象者の詳細をそれぞれAからEで示す。

記号	性別	年齢	外住歴など	その他
A	男性	16歳	0歳から現在まで長崎市在住	
B	女性	22歳	0歳から現在まで長崎市在住	
C	女性	21歳	18歳まで長崎市在住・現在福岡県在住	方言矯正教育あり
D	女性	21歳	18歳まで長崎市在住・現在熊本県在住	
E	女性	22歳	18歳まで長崎市在住・現在福岡県在住	

図7 調査対象者一覧

表に記載の通り、回答者Cに関しては方言矯正教育^{*4}を受けており、回答にかなりばらつきがみられることがあった。

4.5 容認度

今回の調査では回答者5人に文脈を統一した一つの例文に対し、「バイ」の上昇と下降、「タイ」の上昇と下降のいずれかについて、「容認できる」「まあ容認できる」「あまり容認できない」「全く容認できない」の4段階で評価をしてもらい、その容認度をはかる。今回の調査で「容認された」と判断するのは5人中3人以上が「容認できる」と判断し、かつ残りの2人のうち1人以上が「まあ容認できる」と判断したものである。

^{*4} ここでは長崎市方言を使わないようにする教育のことを言う。回答者Cの実家では長崎市方言を使わず、標準語で話すことを勧められていた。

5 調査結果と考察

ここでは結果と考察を述べる。本研究で提示する「バイ」と「タイ」、上昇と下降のイントネーションの意味はそれぞれ以下の通りである。表の太字は「バイ」と「タイ」それぞれで最もよく見られる組み合わせである。

	「バイ」 M(B) 知識Pが談話管理者（話し手、聞き手）のいずれかにとって新規情報である。	「タイ」 M(T) 知識Pが聞き手の知識領域内に既に存在する既存情報である。
上昇イントネーションM(R) →働きかけ ・聞き手に何らかの反応を求める。	M(B)+M(R) 知識Pが聞き手にとって新規情報であるため、Pを聞き手の知識領域に書き込むよう促す。	M(T)+M(R) 知識Pは聞き手の知識領域内に既に存在するため、聞き手にもう一度知識Pを呼び出すよう促す。
下降イントネーションM(F) →述べる ・命題が真であることの宣告。	M(B)+M(F) 知識Pが話し手（もししくは話し手聞き手の両方）にとって新規情報であることを宣言する。	M(T)+M(F) 知識Pは聞き手の知識領域内に既にあることを宣言する。

図8 「バイ」「タイ」とイントネーションとの関連図

5.1節と5.2節ではそれぞれ「バイ」と「タイ」の意味とイントネーションに注目した分類結果とそこから得られる考察を述べる。

5.1 「バイ」の意味とイントネーション

5.1.1 「バイ」の上昇

「バイ」の使用が容認された例文の多くは上昇イントネーションを伴ったものだった。「バイ」の情報イントネーションが見られる例文の多くは、話し手が聞き手にとって新規情報だと判断した状態で発話しているものであった。以下の例文(12)から(15)はいずれも相手の新規情報として提示している。

「バイ」の上昇イントネーションが容認されたのは例えば以下の例文である。

- (12) (状況) 太郎が学生であることを私は知っていて、相手は知らずに、その情報を伝えるとき。

太郎は学生バイ。(↑)

taroowa gakuseibai
taroo=wa gakusei=bai
太郎=TOP 学生=SFP

「太郎は学生だよ。」

- (13) (状況) 妹がテレビを遅くまで見ていて、明日学校だから早く寝なさい。と注意するとき。
(妹も明日学校であることを知らない。)

明日学校バイ (↑)、はよ寝なさい。

asita gakkoubai, hayo nenasai
asita gakkou=bai. Hayo ne-nasai
明日 学校=SFP 早く 寝る-IMP

「明日学校だよ、早く寝なさい。」

- (14) (状況) 相手から（何をしているかはわからない）何しているの？と聞かれて洗濯しているんだよと答えるとき。

洗濯しょっとバイ。(↑)

sentaku siyottobai.
sentaku siyo-tto=bai.
洗濯 する-PROG=SFP.

「洗濯しているんだよ。」

- (15) (状況) 患者が運ばれてきて、その様子を見て研修中の医者（知識が無い）に指導中の医師から「インフルエンザだよ」と伝えるとき。
あ、これ、インフルエンザバイ。(↑)

a kore inhuruennzabai
a kore inhuruennza=bai
あ、これ インフルエンザ=SFP

「あ、これ、インフルエンザだよ。」

よって「バイ」の上昇イントネーション M(B)+M(R) には、話し手が、聞き手の知識領域にないと判断した情報を聞き手の知識領域に新たに書き込む機能があると考えられる。言い換えると「バイ」の上昇イントネーションは相手に訴えかける機能が強いともいえる。

さらに、高山 (2016) において「常識」に分類される例文にも「バイ」の上昇イントネーションが見られた。

しかし、今回調査で使用した例文では、この例文で扱っている情報が相手にとって常識と分類できる情報なのかどうか区別がつかない。例えば例文 (16) 「そんな冷たい物ばっか食べよったらお腹壊すバイ。」は相手が幼児などの場合、話し手は情報の種類を常識ではなく相手にとっての新規情報としてとらえている可能性も十分に考えられる。さらに、例文 (17) 「私たち、もう大学生バイ。」は、話し手が聞き手に対して「大学生の自覚がない」(聞き手の知識領域に自分たちが大学生であるという情報が無い) と判断して、新規情報としてとらえている可能性も考えられる。

(16) (状況) アイスを一度にいくつも食べる友人に対して

そんな冷たい物ばっか食べよったらお腹壊すバイ。(↑)

sonna tumetai mono bakka tabe	yottara onaka kowasubai
sonna tumetai mono bakka tabe	yotta-ra onaka kowasu=bai
そんな 冷たい 物 ばかり 食べる-PROG -COND お腹 壊す=SFP	

「そんなに冷たい物ばかり食べていたら、お腹を壊すよ。」

(17) (状況) 幼稚なことを言いだす友人にあきれて

私たち、もう大学生バイ。(↑)

watasitachi moo daigakuseibai
watasitachi moo daigakusei=bai
私たち もう 大学生=SFP

「私たちもう大学生だよ。」

他にも常識に分類される例文があったがいずれも同様の問題点が指摘できる。(調査例文は本論文の付録に添付) よって、高山 (2016) の「バイ」の常識という分類を用いずとも、本論文のように新規情報という要因で説明可能である。それを「常識」として相手に伝える際には、相手の知識領域に既にある情報であると知ったうえで、あえて新規情報であるかのように提示する「バイ」の上昇イントネーションが見られる。

トネーションを用いることで、強調したり念押ししたりする語用論的効果があるのでないかと考える。

少なくとも長崎市方言においてはこのように常識を分類することで、先述した高山（2016）での「バイ」の新規情報の「常識」というラベルは不要である。今回の調査において、文末に「バイ」を使った例文ではその多くが上昇イントネーションであったことから M(B)+M(R) の形が長崎市方言における「バイ」の主な使用方法だとわかる。

5.1.2 「バイ」の下降

「バイ」の下降は「バイ」が容認された 19 個の例文のうち、4 個の例文で容認された。それらは、話し手自身も知らなかった、今獲得したばかりの情報を話す状況の例文で、その情報を含む文末に「バイ」を付けて下降イントネーションが容認されている。さらに、この際完全な独り言（一人きりの状況）で使われるのではなく、聞き手を必要とする。調査の結果、「バイ」の下降イントネーションには、新規情報を話し手自身（もしくは聞き手と話し手の両方）の知識領域に、より強調して書き込む機能があると考えられる。

「バイ」の下降イントネーションが容認されたのは例えば以下の例文である。

- (18) (状況) 患者が運ばれてきて、その様子を見て同僚の医者（知識は同等）に「インフルエンザだね」と伝えるとき。

あ、これ、インフルエンザバイ。(↓)

a kore inhuruenzabai
a kore inhuruenza=bai
あ これ インフルエンザ=SFP

「あ、これ、インフルエンザだね。」

- (19) (状況) 友人の○○と、今日学校を休んでいる△△の話をしながら「そういえば確かに昨日、関節が痛いとか熱っぽいとか言いよったね～」に対する答えとして

ああ、それ、多分インフルエンザバイ。(↓)

aa sore tabun inhuruenzabai
aa sore tabun inhuruenza=bai
ああ、それ 多分 インフルエンザ=SFP

「ああ、それ、多分インフルエンザだね。」

以上より、長崎市方言の「バイ」については上昇イントネーションと下降イントネーションでそれぞれ機能が異なり、またこのイントネーションの違いが重要であることがわかった。

上昇イントネーションは話し手がいつ情報を獲得したか限定することなく使用できるが、下降イントネーションは自分にも新規情報を書き込む際に使われる。

福岡市博多方言における「バイ」の坪内(1995)の研究では、例文(18)と類似した例文を用いた記述がある。以下、坪内(1995)で使われた例文である。

(20) A：あの患者さん、瞳孔の小そうなる症状の出たげな。

(あの患者さん、瞳孔が小さくなる症状が出たんだって。)

B：ああ、んなら、サリン中毒バイ。

(ああ、じゃあそれはサリン中毒だよ。)

[坪内 1995 : 83]

この例文中のBの発言において坪内(1995)は「もしAにも同じような知識があるとすると、一人で知ったかぶりをしているような、とても失礼な発言となる。」(坪内 1995:83)と記している。しかし、長崎市方言を調査した今回の研究では、例文(18)のように話し手と聞き手の知識状態が同等のとき、「バイ」の下降イントネーションは容認されている。一方で例文(15)のように話し手に知識があり聞き手にとっての新規情報であれば「バイ」の上昇イントネーションが容認される。

M(R)とM(F)というイントネーション自体の意味は、「バイ」M(B)、「タイ」M(T)とは独立している。M(B)は「S領域の知識をH領域に書き込む」という意味があり、M(R)は「聞き手に何らかの反応を期待する」という働きかけの意味がある。そして「働きかけ」を行う上昇イントネーションの意味と「バイ」は結びつきやすいため、これらが共起しやすいと考えることができる。

5.2 「タイ」の意味とイントネーション

5.2.1 「タイ」の上昇

今回の調査では、この形式が見られたのはごくわずかの例文であり、また、「タイ」の上昇イントネーションが容認された回答では必ず「タイ」の下降イントネーションも容認された。調査では、「タイ」の上昇イントネーションの例文は怒られている感覚、指摘されている感覚という内省も多数見られた。さらに、「タイ」の上昇イントネーションを使った例文のあとには相手からの何らかの返答を求めそれ以降も会話の継続が必要であるという指摘もあった。

「タイ」の上昇イントネーションが容認されたのは例えば以下の例文である。

(21) (状況) 大学の友人が1日に何度も「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな～」と同じことを言うのを聞いて、(友人は今日何回も3回ほど言っていることを自覚している。)

それ言うの、今日3回目タイ。(↑)

sore iuno kyoo sankaimetai
sore iuno kyoo sankame=tai
それ 言うの、 今日 3回目=SFP

「それを言うの今日3回目だよ。」

- (22) (状況) 先ほど、見てもいないテレビをつけたままにしていることを注意したばかりなのに、まだ、消していない家族に対して（家族はテレビのついている部屋でだれもテレビを見ずゲームしたり、新聞を読んだりしている。）

もう、まだテレビの付いとるタイ。(↑)

moo mada terebino tuitarutai
moo mada terebi=no tui-toru=tai
もう、まだ テレビ=NOM 付く-PROG=SFP

「もう、まだテレビが付いているよ。」

これらはいずれも、聞き手がすでに知っていると想定できる情報に対して、その情報を含む文章の文末に現れている。M(R)の意味は「聞き手の反応を引き出す」働きかけであった。ここから、M(T)の意味は「既に相手の知識領域にある既存情報」であることを示すことだと分析できる。

上記のような「タイ」の上昇イントネーションの意味、すなわち M(T)+M(R) は、すでに聞き手に存在する知識 P の再確認を促すという意味となり、今回の調査で指摘のあった「怒られている感覚」という語用論的効果につながると分析できる。

5.2.2 「タイ」の下降

「タイ」を使った例文で容認されたもののほとんどが下降イントネーションのものであった。「タイ」の下降イントネーションが容認されたのは例えば以下の例文である。

- (23) (状況) 駐車違反で罰金を払った友人が不満そうに話しているのを聞いて、

○○が悪いとやけん、そりゃあ払わんといけんタイ (↓)

○○ ga waruitoyaken soryaa harawanto ikentai.
○○=ga warui = to = yaken soryaa hara=wanto iken=tai.
君=NOM 悪い=COMP=RES それは 払う=IMP いけない=SFP

「○○が悪いのだから、それは払わないといけないよ。」

(24) (状況) 友達（同じ学校）と遊ぶ日を決めかけたときに、急に思い出して

あ、明日学校タイ。(↓)

a asita gakkootai.

a asita gakkoo=tai.

あ、明日 学校=SFP

「あ、明日学校だよ。」

(25) (状況) 現在大学1年生のいとこが小学2年生のころからダンスを続けているということを聞いて

小2からってことはもう11年もつづけとるとタイ。(↓)

Syooni kara ttekotowa moo jyuuyonen mo tuzuketoru totai.

Syooni kara ttekotowa moo jyuuyonen mo tuzuke-toru to=tai

小2 から ってことは もう 14年 も 続ける-PROG と=SFP

「小2からってことはもう11年も続けているんだね。」

これらはいずれも聞き手がすでに知っていると想定できる情報に対して、その情報を含む文章の文末に現れている。つまり、聞き手の知識領域にすでにあると話し手が判断した情報を相手の知識領域に再度伝える機能を持つ。これらの機能は先述した M(T) と M(F) の意味のであり、自然に導かれる。下降イントネーション M(F) は聞き手に何らかの反応は特に求めず、M(T) と組み合わさることでただ、相手に再度伝えるという形をとる。したがって、M(T)+M(F) の形が「タイ」の主な使用方法だとわかる。

また、先述したように「タイ」の上昇イントネーションが容認された(21)と(22)の例文では、「タイ」の下降イントネーションも容認された。

(状況) 大学の友人が一日に何度も「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな～」と同じことを言うのを聞いて、(友人は今日何回も3回ほど言っていることを自覚している。)

(21) それ言うの、今日3回目タイ。(↓)

sore iu no kyoo sankaimetai

sore iu no kyoo sankaime=tai

それ 言う の 今日 3回目=SFP

「それを言うのは今日3回目だよ。」

(状況) 先ほど、見てもいないテレビをつけたままにしていることを注意したばかりなのに、まだ、消していない家族に対して（家族はテレビのついている部屋でだれもテレビを見ずゲームしたり、新聞を読んだりしている。）

22 もう、まだテレビの付いとるタイ。（↓）

moo mada terebino tuitarutai
moo mada terebi=no tui-toru=tai
もう、まだ テレビ=NOM 付く-PROG=SFP

「もう、まだテレビが付いているよ。」

これらは、「タイ」の上昇イントネーションの時と比べて、相手に言い聞かせてはいるものの柔軟な感じがみられる、等の指摘も話者からみられた。

「タイ」の意味 M(T) は、話し手が伝える知識 P が聞き手の知識領域にすでに存在する、ということである。つまり、これを聞き手に伝える場合、聞き手に対して働きかけるというよりも、話し手の側がその知識 P を真に了解していることを表現したい場合に使われやすいはずである。

すなわち、単なる述べたてである平叙文としての伝え方が一般的であると考えられる。それが、平叙文イントネーション、要するに、下降イントネーションとして生じやすいことにつながる。

6 長崎市方言「バイ」と「タイ」における若年層の代替方言形式

6.1 調査結果

この調査では第2回調査で用いた例文を使用した。それぞれの状況設定で最も適切に容認できると回答した例文について他に同等の意味で日常的に使っている文末表現はあるか、ある場合はどのようなものかを聞き取り調査をおこなった。

6.1.1 「バイ」に限定して見られる代替方言形式

「バイ」について、代替方言形式があるのかどうかを調査すると、いくつかの例文において、文末表現が「バイ」から「ダヨ」や「ヨ」に変化するという結果が見られた。ただし、「タイ」が容認された例文はほぼ全て代替方言形式「ヤン」「ジャン」に置き換わるという回答が見られたのに対して「バイ」の例文では代替方言形式の回答がないものも多数見られた。以下は代替方言形式調査で回答があった一例である

(26) (例文) 大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞いて、「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな～」(友人は今日何回も3回ほど言っていることを自覚していない。)

それ言うの、今日3回目バイ。

sore iuno kyoo sankaimebai
sore iu=no kyoo sankaime=bai
それ 言う=NOM 今日 3回目=SFP

「それ言うの、今日3回目だよ。」

この例文で回答があった代替方言形式は、「それ言うの、今日3回目だよ。」と、「それ言うの今日3回目よ。」の2パターンとなった。

6.1.2 「タイ」に限定して見られる代替方言形式

「タイ」について、「バイ」同様に代替方言形式があるのかを調査すると、文末に「タイ」が使われている多くの例文において「yan」または「jyan」に文末が変化するという結果が見られた。以下は例文(21)において代替方言形式調査で回答があった一例である。

(21) (状況) 大学の友人が一日に何度も「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな～」と同じことを言うのを聞いて、(友人は今日何回も3回ほど言っていることを自覚している。)

それ言うの、今日3回目タイ。

sore iuno kyoo sankaimetai
sore iuno kyoo sankaime=tai
それ 言うの 今日 3回目=SFP

「それを言うのは今日3回目だよ。」

この例文で回答があった代替方言形式は「それ言うの今日3回目yan。」と「それ言うの今日3回目jyan。」という回答が見られた。

6.1.3 「バイ」と「タイ」に共通して見られた代替方言形式

このほかにも、「バイ」と「タイ」の例文に共通して散見された代替方言形式がある。それが「ッサ」という文末表現である。この文末表現が見られる条件は「と+バイ」もしくは「と+タイ」の形で例文が終わっている場合にのみ見られた。具体例を以下に示す。

(27) (状況) コンサートのチケットの販売が開始したことに気付かず、チケットを取り損ねて落ち込んでいる友人に対して
まあ、今回は縁がなかったとタイ。

maa konkaiwa enga nakattatotai
maa konkai=wa en=ga naka-tta=tai
まあ 今回=TOP 縁=NOM ない=PST=SFP=SFP

「まあ、今日は縁が無かったんだよ。」]

- (28) (状況) 部屋を散らかしたまま、片づけようとしない弟に対して
いつもそんなんやけん、お母さんに怒られるとバイ。

itumo sonanyaken okaasanni okorarerutobai.
itumo sonan=yaken okaasan=ni okor-areru=to=bai
いつも そんな=RES お母さん=に 怒る-PASS=SFP = SFP

「いつもそんなんだからお母さんに怒られるんだよ。」

6.2 代替方言形式の調査から得られる考察

「バイ」の代替方言形式として「ダヨ」と「ヨ」が見られたが、これは高山(2016)の調査でも「バイ」の代替方言形式のなかで「ダヨ」と「ヨ」が最も使用されており、福岡市方言の「バイ」の代替方言形式と類似する点といえる。また、標準語の「ヨ」とは異なり、女性に偏って使われる形式ではない。さらに、高山(2016)では福岡の方言に関する記述で「バイ」が急速に衰えており、それに替わって「ヤン・ヤガ」などが優勢になっていると指摘がある。(高山は平山(1997)から参考)しかし、長崎市方言ではこれらの主張とも異なっている。同様にして「タイ」の代替方言形式についても考えると、高山(2016)の研究では複数の代替方言形式が見られたが、今回の調査では「タイ」の代替方言形式として「ヤン」で置き換わりが見られ、時折「ジャン」の形もあった。高山(2016)では「ヤン」に置き換わる用法について〔32〕当たり前である、前提であるということに気づく、〔33〕気づかせる、思い出させる、〔34〕思い出しの語用論的な意味を持つ「タイ」が「ヤン」と置き換わりやすい、と述べており、これは長崎市方言においても同様のことがいえる。具体例を以下に示す。

- (29) (状況) カステラが普通のケーキ（お土産などではなく全国的なもの）と思っている友人（県内）に

なんいいよっと？？カステラは長崎タイ。

nan iiyotto? kasuterawa nagasakitai
nan ii-yot=to? kasutera=wa nagasaki=tai
なん 言う-PROG=SFP? カステラ=TOP 長崎=SFP

「なに言っているの？カステラは長崎だよ。」

この例文は、「何言ってんの？カステラは長崎やん。」のように文末の「タイ」が「ヤン」に交替している。

さらに以下の例文でも文末の変化が起こっている。

- (30) (状況) 友達（同じ学校）と遊ぶ日を決めかけたときに、急にあした学校であることを思い出して

あ、明日学校タイ。

a asita gakkootai.

a asita gakkoo=tai

あ 明日 学校=SFP

「あ、明日学校だよ。」

この例文では「あ、明日学校やん。」となり、ここでも「タイ」が「ヤン」に交替していた。

また、平塚(2009)では、福岡市若年層の「デハナイカ」相当の形式の棲み分けにおいて、「ヤン」と「ジャン」を同分類としている。これは「ジャン」が「ヤン」と同じ状況で見られた今回の調査からも、長崎市方言においても同様のことが言えると考えられる。

今回の調査において「バイ」と「タイ」を比較すると、「タイ」を使用したほぼすべての例文に代替方言形式が見つかっているのに対して、「バイ」を使った例文は比較的代替方言形式の文末表現が見つからずそのままになっている。このことから長崎市方言において、「バイ」は「タイ」よりも若年層に使われやすいことがわかる。従来は「バイ」「タイ」方言の研究では「バイ」を使った十分なデータが得ることができず「バイ」にはあまり言及できていない傾向があったが、今回の調査により、長崎市方言では他の肥筑方言とは異なり、「バイ」が廃語とならずに「バイ」がまだ広く使用されていると考えることができる。

さらに、「バイ」と「タイ」に共通して見られた代替方言形式として「ッサ」という文末表現がわずかに見られたが、これについては現段階でこれ以上言及することが難しく、今後の研究の課題となった。

7 終わりに

本論文では、若年層における長崎市方言の「バイ」と「タイ」の使用について分類し、その代替方言形式についても明らかにすることを目的とし、形態素の意味的な違いからのみならず、イントネーションの違いからもそれぞれの意味機能を記述することを目指した。その結果、聞き手にとっての新規情報としての知識Pの存在を伝えるバイの意味M(B)は、「聞き手に働きかける」という上昇イントネーションの意味M(R)と親和性が高いことから、「バイ」は上昇イントネーションで発話される場合が典型的であることがわかった。

一方、聞き手にとってPは既知の情報であるということを伝える「タイ」の意味M(T)は、聞き手への働きかけではなく、話し手の側の了解を示す平叙文イントネーション(下降)と結びつきやす

いこともわかった。

さらに、このような考え方から、従来ほとんど無視されていた非典型的な組み合わせ、すなわち、 $M(B)+M(F)$ と $M(T)+M(R)$ の意味も計算でき、実際にそれが確認された。

先行研究とは異なり、「バイ」と「タイ」そのものの意味の取り出しを試み、そしてイントネーションとの関連性に言及することができた。

「バイ」「タイ」の意味機能がイントネーションに左右されることを明らかにしたのは本研究の大きな成果である。さらにその代替方言形式も調査することで、長崎市では現在においても「バイ」の使用が若年層の間で広く認められることも明らかになった。

本調査を踏まえて、今後の課題として以下の3点を提示したい。

まず、常識を含む例文についての調査が十分にできなかった点である。高山(2016)を参考に作成した今回の例文では、常識とも新規情報ともとらえることができるものばかりであったため、高山(2016)の分類における問題点には言及できたものの、誰もが知っている常識についての調査が十分ではなかった。

次に、「バイ」の下降イントネーションが容認できる例文を十分に確保できなかったため、話し手が発話直前に獲得した新規情報でのみ「バイ」の下降イントネーションが使用される、という点について十分な考察ができなかった。

最後に代替方言形式の一つとして見られた「ッサ」の用法について言及できなかった点である。まず回答数が圧倒的に不足していた。加えて、「タイ」「バイ」いずれの例文においても形式的に同じような環境で出現し、かつ、「タイ」「バイ」が出現しない文章においても「ッサ」の使用は日常的に認められることから今回は調査することができなかった。

以上の課題点を踏まえると、今後の若年層における長崎市方言における「バイ」と「タイ」の調査においては、調査において常識や情報の新旧などにも詳細に対応できる、より多様な種類の例文を用意する必要がある。さらに、代替方言形式の調査については「バイ」「タイ」のみならず他の文末表現としての長崎市方言を調査し包括的に検討していく必要性がある。

参照文献

- 平川公子 (2008) 「福岡市方言における文末詞バイとタイ」『阪大社会言語学研究ノート』, 8: 116–131.
- 平山輝男 (1997) 『福岡県のことば』 明治書院.
- 平山輝男 (1998) 『長崎県のことば』 明治書院.
- 井上紗良 (2023) 「福岡方言の文末助詞バイ・タイの代替形式について」, 『東京外国語大学記述言語学論集』.
- 笠万裕美 (2013) 「福岡方言文末詞バイの機能」博士論文, 早稲田大学.
- 前田桂子 (2018) 「長崎方言バイ類の変遷について-近世近代の長崎資料を中心に」『筑紫日本語研究』, 2017: 8–18.
- 前田桂子 (2021) 「長崎方言の終助詞タイの変遷について: 近世近代の長崎史料を中心に」『語文論集』 482-501 .
- 前田照彦 (1999) 「長崎方言におけるタイとバイの意味論的差違」『長崎大学留学生センター紀要』, 7: 83–103.
- 長野明子・島田雅晴 (2019) 「「九州方言文末詞 「バイ」 と 「タイ」 の統語と形態について」, 西原哲雄/都田青子/中村浩一郎/米倉よう子/田中真一 (編) 『言語におけるインターフェイス』 (No Title)215-234 .
- 高山彩 (2016) 「福岡市方言の文末詞 「バイ」「タイ」 の福岡部若年層における使用実態と代替形式について」『国文研究』, 61: 126–59.
- 田窪行則 (1989) 「名詞句のモダリティ」『日本語のモダリティ』 くろしお出版.211–233 .
- 坪内佐智世 (1995) 「福岡市博多方言の不変化詞タイ・バイの意味記述」『九州大学言語学研究室報告』, 16: 75–104.
- 坪内佐智世 (2001) 「福岡市博多方言の終助詞 「タイ」 の多様性について」『福岡教育大学紀要. 第1分冊, 文科編= Bulletin of University of Teacher Education Fukuoka. Pt. 1, Language and literature/福岡教育大学 編』, (50): 47–58.
- 平塚雄亮 (2009) 「福岡市若年層方言のデハナイ(カ)相当形式に見られる方言接触」『待兼山論叢. 日本学篇』, 43: 55–72.

付録（調査例文）

以下は本論文執筆にあたり作成した調査例文とその調査結果である。

今回の調査例文は以下のように設定し、一つの例文について「タイ」「バイ」のそれぞれの上昇下降を調べ、その容認度を回答してもらった。

例文番号	文脈	バイ・タイ	↑↓	例文	容認度
1	太郎が学生であることを私は知っていて、相手は知らずに、その情報を伝えるとき。	バイ	↑	太郎は学生バイ	
2	太郎が学生であることを私は知っていて、相手は知らずに、その情報を伝えるとき。	バイ	↓	太郎は学生バイ	
3	太郎が学生であることを私は知っていて、相手は知らずに、その情報を伝えるとき。	タイ	↑	太郎は学生タイ	
4	太郎が学生であることを私は知っていて、相手は知らずに、その情報を伝えるとき。	タイ	↓	太郎は学生タイ	

図9 使用した調査票

今回は調査を3回に分けて行っているため、ここでも第1回調査から第3回調査まで分けて容認された調査例文を示す。

容認度は、

容認できる ◎

まあ容認できる ○

あまり容認できない △

全く容認できない ×

として表す。

・第1回調査結果

例文番号	文脈（状況）	容認されたバイ/タイ	容認された上昇/下降	例文	A	B	C	D	E	備考
1	太郎が学生であることを私は知っていて、相手は知らずに、「太郎は学生だよ」とその情報を伝えるとき。	バイ	↑	太郎は学生バイ	◎	◎	◎	◎	◎	
2	太郎は学生であることをお互い知っているはずなのに、太郎ってどこで働いてるっか？と相手に聞かれ、「太郎は学生だよ」と相手にいうとき。	タイ	↓	太郎は学生タイ	◎	◎	◎	◎	◎	
3	太郎は学生であるということをお互い知っていて、相手に「太郎は学生だから学割が使えるんだよ」伝えるとき。	タイ	↑	太郎は学生タイ、(やけん、学割が使えるっさ。)	◎	◎	○	△	◎	
4	会話中に太郎は学生であるということを話し手自身が忘れていて、どうして学割が使えるんだろうと不思議に思い、太郎が学生であると思い出した時に「太郎は学生だから学割が使えるんだ」と発言する。	タイ	↓	太郎は学生タイ、(やけん、学割が使えるっさ。)	◎	◎	◎	◎	◎	
5	妹がテレビを遅くまで見ていて、明日学校だから早く寝なさい。と注意するとき。（妹も明日学校であることを知っている。）	タイ	↓	明日学校タイ、早く寝なさい	◎	◎	◎	×	◎	
6	妹がテレビを遅くまで見ていて、明日学校だから早く寝なさい。と注意するとき。（妹は明日学校であることを知らない。）	バイ	↑	明日学校バイ、早く寝なさい	◎	◎	○	×	◎	
7	相手から（何をしているかはわからない）何してるの？と聞かれて洗濯してると答えるとき。	バイ	↑	洗濯しよるとバイ (洗濯しょっとばい)	×	◎	◎	◎	◎	
8	患者が運ばれてきて、その様子を見て同僚の医者（知識は同等）に「インフルエンザやね」と伝えるとき。	バイ	↓	あ、これ、インフル（エンザ）バイ	◎	?	◎	○	◎	バイ（↓）、 タイ（↓） どちらも容認
9	患者が運ばれてきて、その様子を見て同僚の医者（知識は同等）に「インフルエンザやね」と伝えるとき。	タイ	↓	あ、これ、インフル（エンザ）タイ	◎	◎	○	◎	×	バイ（↓）、 タイ（↓） どちらも容認
10	患者が運ばれてきて、その様子を見て研修中の医者（知識が無い）に指導中の医師から「インフルエンザやね」と伝えるとき。	バイ	↑	あ、これ、インフル（エンザ）バイ	◎	?	◎	○	◎	

・第2回調査結果

例文番号	文脈(状況)	容認されたバイ/タイ	容認された上昇/下降	例文	A	B	C	D	E	備考
1	すぐ近くのテーブルの上にスマートフォンがおい てあることに気付かず探し続ける友人が「スマホ どこやったっけ？」に対して「そこに乗っている よ」と答える。	バイ	↓	そこに乗っているよ（そこにのっとるタイ）	◎	◎	◎	◎	×	
2	すぐ近くのテーブルの上にスマートフォンがおい てあることに気付かず探し続ける友人が「スマホ どこやったっけ？」に対して「ここに乗っている よ」と答える。	バイ	↑	ここに乗っているよ（そこに乗っとるバイ）	◎	◎	○	◎	◎	言葉文の理論と 実践的な結果に なった。
3	数学のテストの回答用紙が返され、採点に納得の いかない友人に訪ねられて「そこ、答え、10.5だ よ。私丸もらってるし、ほら」と答える。	バイ	↑	そこ、答え、10.5バイ、私丸もらってるし ほら	◎	◎	◎	◎	◎	
4	友人の〇〇と、今日学校を休んでいる△△の話を しながら「そういう人は確かに昨日、筋節が痛いと か熱っぽいとか言いつたね？」に対して「ああ、 それ、多分インフルエンザだよ」と答える。	バイ	↓	ああ、それ、多分インフルエンザバイ	◎	◎	△	◎	◎	
5	長崎に初めて来た友人が、初めて見た龍踊（龍踊 の知識なし）に驚いて「何これ？」に対して 「龍踊だよ」と答える。	バイ	↑	龍踊バイ	◎	◎	◎	◎	◎	高山(2016) で実証なし
6	先ほど、見てもいいテレビをつけたままにして いることを注音したばかりなのに、まだ、消して いない家族に対して「もう！まだテレビが付いて いるよ」と伝える。	バイ	↑	もう！まだテレビの付いとるタイ	◎	◎	×	○	◎	
7	先ほど、見てもいいテレビをつけたままにして いることを注音したばかりなのに、まだ、消して いない家族に対して「もう！まだテレビが付いて いるよ」と伝える。	バイ	↓	もう！まだテレビの付いとるタイ	◎	◎	×	◎	◎	
8	夕飯ができたので食べに来るよう母に言われた にも関わらず、まだ動こうとしない弟に対して 「さっき言われたやろ、もうご飯だよ」と伝える。	バイ	↑	さっき、言われたやろ、もうご飯バイ	◎	◎	△	◎	◎	
9	夕飯ができたので食べに来るよう母に言われた にも関わらず、まだ動こうとしない弟に対して、 「さっきと言われたやろ、お母さんがもうご飯って いっているよ」と伝える。	バイ	↓	さっき、言われたやろ、お母さんが もうご飯って言ひよるタイ	○	◎	×	◎	◎	
10	朝、いやなことがあったという友人の話を聞きな がら、「満員電車で、カーブの時に人の波に押さ れて隣の人にぶつかってしまったとき、それで隣 の人からめっちゃにらまれて、一応隣ったのに ずっと睨まれた」の答えに対して「えー、そ れは仕方ないのね。」と答える。	バイ	↓	えーそれは仕方ないタイね	◎	◎	◎	◎	◎	
11	大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞 いて、「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな 11～」に対して「それ言うの、今日3回目だよ」と 伝える。（友人は今日何回も3回ほど言っている ことを自覚している。）	バイ	↓	それ言うの、今日3回目タイ	◎	◎	◎	◎	△	
12	大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞 いて、「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな 12～」に対して「それ言うの、今日3回目だよ」と 伝える。（友人は3回ほど言っていることを自覺 している。）	バイ	↑	それいうの、今日3回目タイ	◎	◎	×	○	◎	
13	大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞 いて、「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな 13～」に対して「それ言うの、今日3回目だよ」と 伝える。（友人は今日3回ほど言っていることを 自覚していない。）	バイ	↑	それいうの、今日3回目バイ	◎	◎	×	◎	◎	
14	幼稚なことを言いだす友人にあきれて、 「何言ってるの？私たちもう大学生だよ」と伝え る。	バイ	↑	何言ってんの？私たちもう大学生バイ	◎	◎	×	◎	◎	高山(2016) で実証なし
15	アイスを一度に何本も食べる友人にに対して、「そ うんなに冷たい物ばかり食べていたらお腹を壊す よ」と伝える。	バイ	↑	そんなつめたいものばかり食べよったら お腹壊すバイ	◎	◎	○	◎	◎	高山(2016) で実証なし
16	（ずっと家にいる母が遠くから窓を見て）「なん か空暗くなってきたなあ、雨降りだすかなあ」 (雨が降っているのは知らない)というのに対し て「さっきから雨は降っているよ」と答える	バイ	↑	さっきから雨降っとるバイ	◎	◎	◎	◎	◎	
17	昨日エアコンからゴキブリがでてきたが、原因 がわからないという友人に「エアコンからなら室 外機のホースだよ」と教えてあげるとき。	バイ	↑	エアコンからなら室外機のホースバイ	◎	?	◎	◎	○	
18	なぜ、今日難しい問題に授業でこたえられたのか と友人に聞かれて「昨日ちゃんと復習したからだ よ。」と答えるとき。	バイ	↑	昨日ちゃんと復習したけんバイ	◎	○	◎	○	◎	
19	カステラが普通のケーキ（お土産とかではなく全 国的なもの）と思っている友人（県外）に「何 言ってるの？カステラは長崎バイ	バイ	↑	なんいいよっと？？カステラは長崎バイ	◎	◎	◎	◎	◎	高山(2016) で実証なし
20	カステラが普通のケーキ（お土産とかではなく全 国的なもの）と思っている友人（県内）に「何 言ってるの？カステラは長崎じゃん」と伝えると き。	バイ	↓	なんいいよっと？？カステラは長崎タイ	○	◎	◎	◎	◎	

例文番号	文脈（状況）	容認されたバイ/タイ	容認された上昇/下降	例文	A	B	C	D	E	備考
21	家で必死に勉強しているところに兄弟がやってきて弟が「なんしようと？」と聞いてきた答えとして「勉強しているんだよ」と答える	タイ	↓	勉強しょっとタイ	◎	◎	◎	◎	◎	
22	コンサートチケットの販売が開始したことに気付かず、チケットを取り損ねて落ち込んでいる友人を「今回は縁がなかったんだよ」と慰める	バイ	↓	まあ、今回は縁がなかったとバイ、	◎	◎	○	◎	×	バイ（↑）、 タイ（↓） どちらも容認
23	コンサートチケットの販売が開始したことに気付かず、チケットを取り損ねて落ち込んでいる友人を「今回は縁がなかったんだよ」と慰める	タイ	↓	まあ、今回は縁がなかったとタイ、	◎	◎	○	?	◎	バイ（↑）、 タイ（↑） どちらも容認
24	駐車違反で罰金を払った友人が不満そうに話しているのを聞いて「君が悪いのだから払わなきゃいけないよ」と伝える。	タイ	↓	○○が悪いとやけん、そりゃあ払わんといけんタイ	◎	◎	○	◎	◎	
25	部屋を散らかしたまま、片づけようともしない弟に対して「いつもそんなどからお母さんに怒られるんだよ、知らないからね」と伝える	バイ	↑	いつもそんなんやけん、お母さんに怒られるとバイ、知らんけんね！	◎	◎	×	◎	○	
26	以前から興味を持っていた心靈スポットに行くことを友人たちに提案したところ、猛反対を受けた状況でしぶしぶあきらめて「そんなにみんな反対するならあきらめるよ」と伝える	バイ	↓	そんなにみんな反対するなら、あきらめるバイ	◎	◎	○	◎	◎	
27	友達（同じ学校）と遊び日を決めかけたときに、明日学校があることを急に思い出して「あ、明日学校だよ！」と伝える。	タイ	↓	あっ！明日学校タイ	◎	◎	○	◎	◎	
28	どう考えても友人に非があるとき（友人もわかって28いる）「ごめん、私が悪かった」に対して「そうだよ、君が悪いんだよ」と伝える。	タイ	↓	そうばい、あんたが悪かとタイ	◎	◎	×	◎	◎	
29	現在大学一年生のいとこが小学二年生のころからダンスを続けているということを聞いて「小2からってことはもう11年もつづける」と伝える。	タイ	↓	小2からってことはもう11年もつづけるとタイ	◎	◎	○	◎	◎	
30	友人とレストランに行く日を決めたが、そこを友人が調べるとその日が定休日だったため、友人が「25日にしようって言ったけど、水曜日だから定休日だよ。」と言われ「w、それじゃあ行けないね。」と伝える	タイ	↓	えっ、それじゃあ行けんタイ	◎	◎	○	◎	◎	
31	友達（長崎出身）と長崎出身の歌手の話をしながら、「長崎出身の歌手ってさだまさし以外誰がおったっけ？」に対する答え	タイ	↓	え！ほら、福山雅治とか、MISHAとかおるタイ！	◎	◎	○	◎	◎	

第3回調査（代替方言形式調査）結果

例文番号	文脈（状況）	容認されたバイ/タイ	容認された上昇/下降	例文	A	B	C	D	E	備考
1	すぐ近くのテーブルの上にスマートフォンがおいてあることに気付かず探し続ける友人が「スマホどこやったっけ？」に対して「そこに乗っているよ」と答える。	タイ	↓	そこに乗っているよ（そこにのっとるタイ）	やん	やん	やん	やん	じゃん	
2	すぐ近くのテーブルの上にスマートフォンがおいてあることに気付かず探し続ける友人が「スマホどこやったっけ？」に対して「ここに乗っているよ」と答える。	バイ	↑	ここに乗っているよ（そこに乗っとるバイ）	よ	よ	よ	やん		
3	数学のテストの回答用紙が返され、採点に納得のいかない友人に訪ねられて「そこ、答え、10.5だよ。私丸もらってるし、ほら」と答える。	バイ	↑	そこ、答え、10.5バイ、私丸もらってるし、ほら			だよ			
4	友人の〇〇と、今日学校を休んでいる△△の話をしながら、「そういえば確かに昨日、関節が痛いとか熱っぽいとか言いよったね～」に対して「ああ、それ、多分インフルエンザだよ」と答える。	バイ	↓	ああ、それ、多分インフルエンザバイ						
5	長崎に初めて来た友人が、初めて見た龍踊（龍踊の和歌なし）に驚いて「何これ？！」に対して「龍踊だよ」と答える。	バイ	↑	龍踊バイ		だよ	だよ			
6	先ほど、見ててもいいないテレビをつけたままにしていることを注視したばかりなのに、まだ、消していない家族に対して「もう！まだテレビが付いているよ」と伝える。	タイ	↑	もう！まだテレビの付いとるタイ	やん			やん		
7	夕飯ができたので食べに来るよう母に言われたのに聞わらず、まだ動こうとしない弟に対して、「さっき言われたやろ、もうご飯だよ」と伝える。	バイ	↑	さっさ、言われたやろ、もうご飯バイ		だよ				
8	夕飯ができたので食べに来るよう母に言われたのに聞わらず、まだ動こうとしない弟に対して、「さっき言われたやろ、お母さんがもご飯って言いよるタイ」と伝える。	タイ	↓	さっき、言われたやろ、お母さんがもうご飯って言いよるタイ	やん	やん	やん	やん	やん	
9	朝、いやなことがあったという友人の話を聞きながら、「油貢電車で、カーブの時に人の波に押されて隣の人にぶつかったしまったとき、それで隣の人からめっちゃにうまれて、一応謝ったのにすっと脱まれとった」の答えに対して「えー、それは仕方ないのにね。」と言える。	タイ	↓	えーそれは仕方ないタイね	やん	とにかく	やん	じゃん	やん	
10	大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞いて、「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな～」に対して「それ言うの、今日3回目だよ」と伝える。（友人は今日何回も3回ほど言っていることを自覚している。）	タイ	↓	それ言うの、今日3回目タイ	やん	やん	やん・ じゃん	だよ		
11	大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞いて、「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな～」に対して「それ言うの、今日3回目だよ」と伝える。（友人は3回ほど言っていることを自覚している。）	タイ	↑	それいうの、今日3回目タイ	やん	やん	やん・ じゃん	だよ		
12	大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞いて、「ああ疲れた、はよ夏休みにならんかいな～」に対して「それ言うの、今日3回目だよ」と伝える。（友人は3回ほど言っていることを自覚している。）	バイ	↑	それいうの、今日3回目バイ	よ	だよ	だよ			
13	幼稚なことを言いだす友人にあきれて、「何言ってるの？私たちもう大学生バイ」と伝える。	バイ	↑	何言ってんの？私たちもう大学生バイ	やん	だよ	じゃん			
14	アイスを一度に何本も食べる友人に対して、「そんなに冷たい物ばかり食べいたらお腹を壊すよ」と伝える。	バイ	↑	そんなつめいたものばかり食べよったらお腹壊すバイ	よ	よ	よ			
15	（ずっと家にいる母が遠くから窓を見て）、「なんか空暗になってきたなあ、雨降りだすかなあ」（雨が降っているのは知らない）というのに対して「さっきから雨は降っていないよ」と答える。	バイ	↑	さっさから雨降っとるバイ		よ				
16	昨日エアコンからゴキブリがでてきたが、原因がわからないという友人に「エアコンからなら室外機のホースだよ」と教えてあげるとき。	バイ	↑	エアコンからなら室外機のホースバイ		だよ	じゃな い？			
17	なぜ、今日難しい問題に授業でこたえられたのかと友人に聞かれて「昨日ちゃんと復習したからだよ。」と答えるとき。	バイ	↑	昨日ちゃんと復習したけんバイ			かなあ			
18	カステラが普通のケーキ（お土産とかではなく全国的なもの）と思っている友人（県外）に「何言ってるの？カステラは長崎だよ」と伝える。	バイ	↑	なんいいよっと？？カステラは長崎バイ	よ	だよ				
19	カステラが普通のケーキ（お土産とかではなく全国的なもの）と思っている友人（県内）に「何言ってるの？カステラは長崎じゃん」と伝えるとき。	バイ	↑	なんいいよっと？？カステラは長崎タイ	やん	やん	やん		やん	
20	カステラが普通のケーキ（お土産とかではなく全国的なもの）と思っている友人（県内）に「何言ってるの？カステラは長崎じゃん」と伝えるとき。	タイ	↓	なんいいよっと？？カステラは長崎タイ						

例文番号	文脈（状況）	容認されたバイ/タイ	容認された上昇/下降	例文	A	B	C	D	E	備考
21	家で必死に勉強しているところに兄弟がやってきて弟が「なんしようと？」と聞いてきた答えとして「勉強しているんだよ」と答える	タイ	↓	勉強しょっとタイ	yan	ts	ru	yo・ts	ts	
22	コンサートチケットの販売が開始したこと気に付かず、チケットを取り損ねて落ち込んでいる友人を「今回は縁がなかったんだよ」と慰める	バイ	↓	まあ、今日は縁がなかったとバイ、			da	ya	ne	
23	コンサートチケットの販売が開始したこと気に付かず、チケットを取り損ねて落ち込んでいる友人を「今回は縁がなかったんだよ」と慰める	タイ	↓	まあ、今日は縁がなかったとタイ、	yanai	ts	da		ts	
24	駐車違反で罰金を払った友人が不満そうに話しているのを聞いて「君が悪いのだから払わなきやいけないよ」と伝える。	タイ	↓	○○が悪いとやけん、そりやあ払わんといけんタイ	(ば) yan	yan	yan		yan	
25	部屋を散らかしたまま、片づけようともしない弟に対して「いつもそんなんやけん、お母さんに怒られるんだよ、知らないからね」と伝える	バイ	↑	いつもそんなんやけん、お母さんに怒られるとバイ、知らんけんね！	ts	ts		ts		
26	以前から興味を持っていた心霊スポットに行くことを友人たちに提案したところ、猛反対を受けた状況でしぶしぶあきらめて「そんなにみんな反対するならあきらめるよ」と伝える	バイ	↓	そんなにみんな反対するなら、あきらめるバイ	(わ) ?	(し) ?	yo			
27	友達（同じ学校）と遊ぶ日を決めかけたときに、明日学校があることを急に思い出して「あ、明日学校だよ！」と伝える。	タイ	↓	あっ！明日学校タイ	yan	yan	yan	jiyan	yan	
28	どう考えても友人に非があるとき（友人もわかっている）「ごめん、私が悪かった」に対して「そうだよ、君が悪いんだよ」と伝える。	タイ	↓	そうばい、あんたが悪かとタイ	yan	yan・sa	da	tte	sa	
29	現在大学一年生のいとこが小学二年生のころからダンスを続けているということを聞いて「小2からってことはもう11年もつづけるとタイ	タイ	↓	小2からってことはもう11年もつづけるとタイ	yan		to			
30	友人とレストランに行く日を決めたが、そこを友人が調べるとその日が定休日だったため、友人が「25日にしようって言ったけど、水曜日だから定休日だよ。」と言われ「え、それじゃあ行けないね。」と伝える	タイ	↓	えっ、それじゃあ行けんタイ	yan	yan	yan	yan		
31	友達（長崎出身）と長崎出身の歌手の話をしながら、「長崎出身の歌手ってさだまさし以外誰がおったっけ？」に対して、「え、ほら、福山雅治とかMISHAとかおるタイ！」	タイ	↓	え！ほら、福山雅治とか、MISHAとかおるタイ！	yan	yan	yan	yan	yan	

高山 (2016) が設定した分類項目

バイ	←
〈聞き手を必要とする場合〉 ←	
●聞き手にとっての新規情報 ←	
… (話し手の情報獲得源) [1] 現実の事物、[2] 推論の場、[3] 記憶、[4] 常識 ←	
●聞き手にとっての既存情報 ←	
… (話し手の情報獲得源) [5] 現実の事物、[6] 推論の場、[7] 記憶、[8] 常識 ←	
〈聞き手を必要としない場合〉 ←	
・過去の状況の説明として独り言のように用いられる場合 ←	
… [9] 過去の状況で相手が存在する場合 ←	
… [10] 過去の状況で完全な独り言である場合 ←	
・[11] 独り言のように用いられる場合 ←	
←	
タイ	←
〈聞き手を必要とする場合〉 ←	
●聞き手にとっての新規情報 ←	
・基本的な意味機能 ←	
… (話し手の情報獲得源) [12] 現実の事物、[13] 推論の場、[14] 記憶、[15] 常識 ←	
・派生する意味機能… ←	
[16] 断言する・相手に <u>うむ</u> を言わせない語気を持つ ←	
[17] なだめる ←	
[18] 言いきかせる ←	
[19] 突き放し・見放し ←	
[20] 必要とされる事実のみを提示し、それ以外の部分には敢えて言及しない ←	
[21] 暫定的承認 ←	
[22] 乗り気ではないままの意思の変更 ←	
[23] 前提構成 ←	
[24] 単なる返答・単に話題を進行させる ←	
[25] 思い出し ←	
●聞き手にとっての新規情報 ←	
・基本的な意味機能 ←	
… (話し手の情報獲得源) [26] 現実の事物、[27] 推論の場、[28] 記憶、[29] 常識 ←	
・派生する意味機能… ←	
[30] 断言する・相手に <u>うむ</u> を言わせない語気を持つ ←	
[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する ←	
[32] 「当たり前である、前提である」ということに気付く ←	
「33」気づかせる・思い出させる ←	
〈聞き手を必要としない場合〉 ←	
・[34] 思い出し ←	
・[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性 ←	
←	

図 10 高山 (2016) が設定した分類項目 (図の形式の一部を筆者が編集)

丁寧体への接続

- ・パイ・・・[3 6] です、[3 7] でした、[3 8] ます、[3 9] ました
- ・タイ・・・[4 0] です、[4 1] でした、[4 2] ます、[4 3] ました

図 11 高山 (2016) が設定した分類項目（図の形式の一部を筆者が編集）

グロス一覧

以下は本論文で使用したグロスである。

COMP	補文標識
COND	条件・仮定
IMP	命令
LNK	連結辞
NOM	主格
PROG	継続相
PST	過去
PASS	受動・受け身
RES	原因・理由
SFP	終助詞・文末助詞
TOP	主題

謝辞

本論文の執筆にあたり、たくさんの方々の協力をいただきました

まず、数ヶ月にわたって方言調査に協力してくださった友人と家族に深く感謝いたします。調査がやり直しになったり、予定よりも長期間になったりしたにもかかわらず、快く最後までご協力いただきました。私の拙い調査に協力してくださりありがとうございました。

また、指導教員である下地理則先生には、学部1年の頃から言語学の基礎基本からはじまり、方言調査の魅力とその難しさなどを教えていただきました。卒業論文の執筆にあたっても、ゼミ配属前のテーマ決定から今日に至るまで何度も相談に乗っていただきました。本格的に卒論研究が始まってからは、先行研究が少ないこのテーマに何度も行き詰まる私に助言をくださり、また論文や文献を教えていただきました。本当にありがとうございました。

言語学・応用言語学研究室の上山あゆみ先生、太田真理先生には講義や演習で言語学に関するたくさんの知識を教えていただきました。

研究室の先輩方にも大変お世話になりました。特に廣澤尚之先輩には、ゼミが始まった3年後期から調査例文の作り方や調査方法など、方言調査の基本的なことについて多くのアドバイスをいただきました。また、本論文執筆にあたっても様々な相談に乗っていただきました。本当にありがとうございました。研究室の同期には、なかなか頻繁には会うことがありませんでしたが、お互いの論文について相談する時間は私にとって大きな力となりました。さらに、ゼミの同期の存在は大きな刺激でした。演習の発表や卒論執筆の課程でたくさん相談し合い、切磋琢磨しながらここまで来ることができました。

最後に、福岡への進学のため長崎から快く送り出してくれ、大学生活4年間を何不自由なく送ることができるように支えてくれた両親をはじめ、いつも見守ってくれる家族に深く感謝いたします。